

シリーズ  
地質調査のパートナー(4)

## 鍬

# =弱固結堆積物の露頭調査に万能のすぐれモノ=

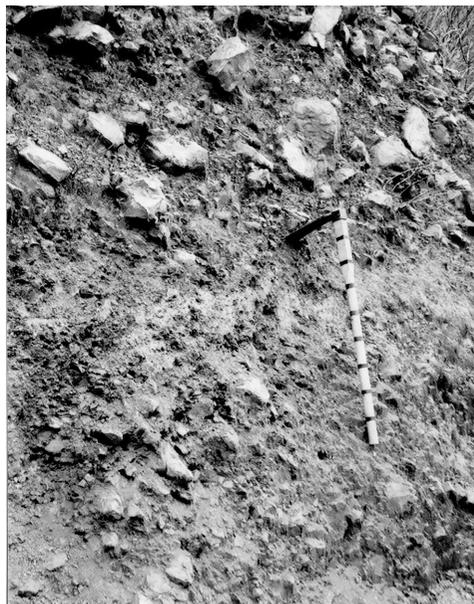
小松原 琢<sup>1)</sup>

ホームセンターを歩いていると、「あっ、これは使えるかも・・・」と感じるモノに出会うことが少なくありません。私が愛用する調査道具の中には、そんなモノが少なくありません。今回紹介するのは「鍬」。ご存知農作業必須の道具です。どの農具店でもホームセンターでも2千円～6千円で入手できるこの道具、今更ご紹介するほどのものでもないでしょう。ここでは使ってみてどうだったの？ということにお答えすることにいたしましょう。

私が鍬を使うのは、もっぱら中部更新統～完新統の弱固結堆積物の露頭調査です。これまで固結度の低い堆積物の調査では、鋤簾、スコップ、ツルハシ、そしてネジリ鎌が定番とされてきました。しかし現実にはツルハシで美しい露頭を作り出すのは酷というもの、スコップは露頭を掘り出して作るのには便利ですが腰より高い位置には使えません。ネジリ鎌は露頭の整形に威力を発揮してくれるものの、露頭を作ったり草付きの露頭を攻めたりするには力不足。鋤簾もまた然り。ハンマーは未固結露頭ではほとんど役に立たない・・・。

そこで、草が付いたり厚い表土に覆われていたりする露頭、特に腰より高い位置の露頭、を調査するときには、鍬が登場してもらいます。鍬の柄は長いので、頭より高い斜面上に露頭を作ることできます。固結した堆積物には鍬の歯は立ちませんが、弱固結堆積物ならばネジリ鎌や鋤簾よりパワーがある分、深く掘りこんで新鮮な露頭面を作ることができます。竹や笹の根が張った露頭でも、割と楽にきれいな露頭面を作ることができます。もちろん鍬本来の使い方＝足元の地面を掘り起こすこと＝でもスコップ並みの力を発揮します。未固結堆積物なら鎌で整形しなくても結構美しい露頭を作ることができます。もちろん、鎌で再整形の方が美しいことは間違いないですが・・・。

と、いうわけで私は数年前から鍬を持ち歩いて踏査を行なっています。農村地帯の調査では、鍬を肩



に歩いていると伸び伸びした気分になります。野菜泥棒と間違えられない限り、農家の方とのお話にも花が咲く・・・。

しかし、唯一の欠点があります。それはバスや電車に持ち込めないこと。鍬の刃と柄は楔で打ちとめられているので、刃を取り外すこともできますが、それでも刃は大きいし柄は長い・・・公共交通機関に持ち込んで運搬するには適していないと思います。また何度も楔を打ちこむと柄が傷んでしまうので、刃を頻繁に外したり付けたりすることはお勧めできません。

鍬には刃の長さ・角度・重さ・柄の長さなどいろいろな種類があります。私がお勧めするのは、刃が小さくて軽め、かつ刃と柄の角度が直角に近いものです。しかし、道具選びでは使う人の好みが一番大切。手になじんで使い勝手が良さそうなものを選べば良いでしょう。

一度農具店やホームセンターでお好みのものを探してみませんか？

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード：鍬、露頭調査